

## わたしのおこめじいちゃん

羽生市立羽生北小学校 一年  
岡 田 愛 梨

ふつくらびかぴかあつあつのごはんから、ほんわかあまいゆげのかかりがする。おちゃわんからはしてくちにいれると、ふんわりほどけて、かめばかむほどあまくなる。

「なんでこんなにおいしいんだろう。」

「きつと、おこめじいちゃんがいつしようにけんめいつくったからだよ。」  
と、いつもかぞくではなしている。

おばあちゃんちのにわでいもうととあそんでいると、

「きてたんかい？」

と、びしよびしよのしゃつにどろだらけのずぼん、こしからたおるをぶらさげて、とらつくからおりてくる。

おこめじいちゃんは、86さい。ほんとうは、ひいおじいちゃんだけど、おこめじいちゃんてよんでいる。おこめづくりのめいじんだからだ。はるは、おもいひりようをかついでまいて、たねをまいて、たうえをする。なつは、あついなか、くさをとったり、たんぼのみずのりようをみにいたり。あきは、いねかりでおおいそがし。そして、ふゆはトラクターでたんぼをたがやす。やすんでいるのをみたことがないほどはたらきものだ。おこめじいちゃんがだいにだいにそだてたおこめがおいしくないわけがない。

おばあちゃんちには、105さいのひいひいばあちゃんがいる。あしがよわくなってねたきりだけど、わたしたちとおなじようにごはんをたべる。きつと、おこめにながいきのまほうがかかっているんだ。さいきん、おこめじいちゃんが、こしやひぎがまがって、

「いつまで、こめをつくれるかわからない。」

といていた。おいしいおこめがたべられなくなるのは、いやだ。さいごのひとつぶまでまいにちきれいにたべるから、いつまでもげんきで、おいしいおこめをつくりつづけてね、おこめじいちゃん。